

麻生すこやか通信

VOL. 35

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2019年1月

胆振東部地震の衝撃を超えて

麻生の今年の挑戦！

理事長 斎藤 久寿



新年おめでとうございます。昨年はブラックアウトを伴う大地震を経験しました。職員一人一人の協力で大事に至らなかったのは幸いでした。昭和六十年四月に開院した当院三十三年の数々の歴史の中でも、一番の事件でした。災害は多くの教訓を教えてくださいました。地震・台風等自然災害に備える設備や蓄えが極めて重要な事だと再認識しました。想定外の事態に備えて、限られた医療材料や食糧を最大限に活用し、いかに迅速に臨機応変な対応ができるか、そういった組織作りが重要だと実感し、新たな課題となりました。今年で平成も終わり新元号となりますが、明日に向け更なる努力の成果を次の時代にも引き継いでいきたいと思っています。

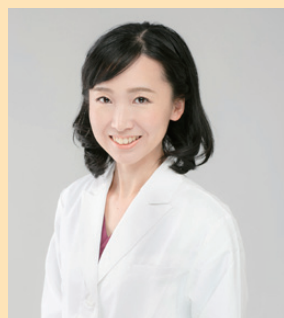
昨年は脳卒中ケアユニットを増床しました。重症の急性期脳卒中患者の初期治療がより効率的になり、救急患者の受け入れもスムーズになります。

そして今年は入院支援センターを新たに立ち上げます。医師・看護師・ソーシャルワーカー等と地域のより速やかな連携を進め、入院と同時に退院支援を開始し、患者さまにとって切れ目のないスムーズな体制を整えることが目的です。退院し、在宅で療養される方とご家族が住みなれた地域で安心して健やかな生活が続けられるよう、リハビリテーション科も専門医の指導のもと理学療法士、作業療法士、言語聴覚士を増員し、構音・嚥下障害にも力を入れています。各部署のスムーズな連携と待たせない外来診療、それらが患者さま満足度のアップに繋がります。諦めない、ネバーギブアップの精神を今年も継続していきます。皆様の叱咤激励をお願いし、今年も患者さまにとっても、麻生脳神経外科病院にとっても良い年でありますようお願いいたします。

リハビリテーション科



現在、リハビリテーション科職員は総勢41名(理学療法士20名、作業療法士12名、言語聴覚士9名)となり、患者さまの機能改善に全力を注ぎながら、その人らしい生き方をより良い未来に繋ぐリハビリとなることをモットーに働いています。



リハビリテーション科
安彦 かがり医師

2018年4月からは、安彦かがりリハビリテーション医を迎え、今まで以上に専門的知識、技術を高めていく努力をしています。当院のリハビリテーション科は、「明るく元気に楽しく」行われており、笑顔に溢れ、リラックスした雰囲気の中で患者さま・リハビリスタッフ共に熱心に取り組んでいるのが特徴です。

また、急性期から一貫したリハビリテーションを提供すべく、回復期リハビリテーション病棟(39床)、地域包括ケア病棟(10床)も備えています。今後は、更に在宅復帰、地域に戻られてからの生活へと繋げていくことを目的に、訪問看護師と一緒に新たな事業を開始する準備も進んでいます。

これからも地域の皆様が必要とされる一員としてリハビリテーション科一同、活動を継続できるように努力して参りたいと思っています。



理学療法

理学療法部門では、機能改善に向けたアプローチはもちろん、退院後の生活を見据えた、早期からの屋外歩行・買い物練習・公共交通機関の乗車訓練・職場復帰に向けた応用動作訓練や、自宅復帰後の生活場면을想定した自宅内の改修相談や福祉機器選定など、日常生活動作のみならず、生活の視点を持った取り組みを強化しています。



作業療法

作業療法部門では、基本的な生活動作獲得に向けたアプローチに加え、調理や掃除、洗濯など、家事動作を自宅の環境を想定した空間（ADL室）を用いながら実施する事で、在宅生活が円滑に進むよう課題解決に取り組んでいます。また、自動車運転に向けた高次脳機能評価や実車評価など、自動車学校とも連携を図りながら入院中からアプローチしています。



自宅復帰後の生活場면을想定した家事動作訓練の様子

言語聴覚療法

言語聴覚療法部門では、失語症・構音障害といったコミュニケーション能力の改善に向けた治療と共に、昨今、注目されている摂食嚥下障害にも積極的に対応しています。また、医師や歯科医師・看護師・管理栄養士・薬剤師な多職種と積極的に連携し、栄養面や食形態の調整、工夫をするなど「食」からも生活を支える活動に尽力しています。



PICK UP!



リハビリテーション科科长
言語聴覚士 **源間 隆雄**

リハビリテーション科科长、日本言語聴覚士協会認定言語聴覚士（摂食嚥下領域）の源間隆雄と申します。言語聴覚士9名を中心に、失語症や構音障害といったコミュニケーション障害のリハビリテーションはもちろんのこと、昨今、特に注目されている摂食嚥下障害、誤嚥性肺炎予防への対応にも積極的に取り組んでいます。

「食」の安全、楽しみを再獲得するためには、医師、看護師、管理栄養士のみならず、多職種連携が必須です。また、御家族の協力と理解が不可欠であり、急性期から在宅まで幅広い知識と技術を要します。当院は栄養サポートチームとの緊密な連携と必要十分な検査を実施しながら食支援に取り組んでいます。これからも院内全体で「口から食べられる取り組み」に邁進していきたいと思っています。

ドクターご紹介

+++++ Doctor introduction



医師 丸山 邦隆

2018年10月より赴任しました丸山邦隆と申します。前任の山本、白石、加茂に引き続き、富山大学より赴任いたしました。富山も雪は降りますが、冬の北海道の寒さは富山とは比べ物にならず、日々戦々恐々としております。北海道の美味しい食事で熱量を確保し、乗り切りたいと思います。

私の自己紹介を簡単にさせていただきます。出身は長野県小諸市で、小さな頃は千曲川(信濃川)で泳いでいました。大学より富山に移り、以降富山で過ごしてきました。学生時代は、小学校からずっと卓球をやっていました。大学卒業後は富山大学附属病院、その他関連病院にて勤務してきました。好きな食べものは、ラーメンとお寿司です。札幌は食事が非常に美味しいので、最近体重が増加してきました。今後はダイエットに励みたいと思います。まだまだ若輩者であり、至らない点も数多くありますが、患者さまに寄り添った医療をモットーに日々の診療に励んでまいります。よろしくお願い申し上げます。

2015年、富山大学医学部卒業。その後、富山大学病院、黒部市民病院、市立砺波総合病院に勤務。2018年10月より当院勤務。

診療日のご案内

2019年5月1日(水)、5月2日(木)は外来診療いたします

編集後記

昨年10月に当院1階にて、第1回テラス教室を開催しました。当院を身近に感じていただくため、正面玄関横の吹き抜けテラスを会場にした初の試みです。テーマは「子供の頭部打撲について」で、17名の参加がありました。お子様が頭をぶつけたときは、まずは当院にご相談ください。子育て世代のお母さんも頭痛など辛い症状がありましたら、我慢せずに、お子様を連れて受診してください。患者さまの笑顔は私たちの宝物です。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄:南北線 北24条駅下車
(2番・3番出口から徒歩約7分)
- 中央バス:「北21東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス:「北24東1」下車、徒歩約2分



携帯用サイト



当院への バス路線 中央バス

屯田線 02・新琴似線 09・あいの里・篠路線 22
篠路駅前団地線 36・ひまわり団地線 28
花川南団地線 14・花畔団地線 16・元町線 東70
石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札厚線・札幌線(特急)

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線 09・花川南団地線 14・花畔団地線 16・石狩線・石狩線(トーマン団地行)
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。